

学生と地域を結ぶ きっかけづくりを 「地域づくり インターンの会」



川見 亮介
地域づくりインターンの会
事務局
(東京都 早稲田大学理工学部内)

地域づくりインターンの会とは…



派遣先での農家民泊

関する様々な取り組みをしてもらいます。学生が地域社会に游学することで、学生と地域の人々が双方を映す鏡となり、学生には地域の理解と自分自身を見つめ直すきっかけを、地域には客観的で新鮮な評価と感性をもたらし、地域づくり活

「地域づくりインターンの会」とは、都市農村交流をテーマに、地方地域と学生を結びつける活動を展開している学生運営主体の団体です。具体的活動としては学生をインターンシップ生として夏の長期休暇に地方地域へ派遣しています。学生には2〜4週間ほど地域に滞在しながら、地元住民の方と共にまちづくりの

動へ活かすきっかけを創出することを目的としています。

発足の経緯

そもそも「地域づくりインターンの会」が設立された経緯として、国交省(当時の国土庁)が1997年に開始した「地域づくりインターン事業」の存在があります。この事業はUJ・インターン促進と地域活性化を目的に2年ほど実施されましたが、まもなく中止となつてしまいました。その際事業に参加した学生と地域が、この取り組みをそのまま終わらせてはいけなさと感じ、翌年に自主的に立ち上げたのがこの「地域



学園祭出店

づくりインターンの会です。設立当初の熱い思いはそれから10年経つ今も、脈々と後輩の学生や地域に受け継がれています。

活動の特徴

会は現在、8つの地域、30人ほどの学生が会員になっており(学生は毎年入れ替わりです)、運営は派遣経験のある学生の有志により、会費とOB・OGを中心とした賛助会員の出資を基に行われています。会は活動として夏に行われる派遣をメインとしながら、派遣後も継続的に学生と地域が交流を続けていけるようにという考えのもと、様々な取り組みを行っています。

まず、派遣前に学生と地域のマッチングを行う「派遣地決定会」。学生と地域の担当者が一同に東京に集まります。夜に行われる懇親会では地域ごとにブースが作られ、学生は地域の担当者と、各地域から持ち寄られた特産品を食べながら、お互いにインターンシップにかける思いを語り、担当者は派遣での活動内容を説明します。学生が期間中ひたすら農作業を手伝い、それを通して地元コミュニティに溶けこむ地域、実際に実施が検討されている農家民泊・地域通貨などの事業について調査を手伝う地域、課題を自ら発

特集 若者よ、地域へ行こう



派遣地決定会懇親会

見し解決案を模索する地域など場所によってその活動内容と目的は異なります。学生は自身の問題意識や興味によってその中から派遣場所を選択することができます。

この取り組みは、ベストなマッチングはもちろんですが、学生に対して実際は派遣されない地域や、共に活動を行わない学生とも、知り合う機会になります。

また派遣後に行う「報告会」では、学生がスライドや劇など思い思いの方法で、派遣での感想を、他の学生や地域の担当者の前でプレゼンテーションします。学生はこれを通して再び地域での活動を振り返ることで、地域で感じたことを整理し向き合うことができ、また他地域と自分の地域での経験を共有、比較することで地域に対する理解を深めることができます。

学生の派遣後の活動

会でできた地域や学生のネットワークは、会での活動を終えた後も、自主的な活

動を生みだしています。

例えば、違う地域に派遣された学生同士が、会の活動を通して知り合うことで、お互いに紹介するように地域を訪れることがあります。私自身も、派遣後そうして多くの地域を訪れることができました。

また昨年は、ご当地の食材を取り寄せ、大学学園祭の中で地域PRを兼ねて調理し販売をするという取り組みも自主的に行われました。

進路としても、まちづくりコンサルに所属し、実際に自分が派遣された地域の活性化に取り組む者、官僚になり国の仕組みから変えることで地域の助けになりたいと思い実践する者、または観光や食の分野から地域を考えアピールしたいと考え、関連企業に就職した者など、地域づくりをテーマとして働いているOB・OGが大勢います。

こうしたことは、「地域づくりインターン」での経験をひと夏の思い出で終わらせず、継続的な地域、学生との交流により、深く地域について考え結びついたからこそ生まれたのではないかと思っています。

インターンの会はきっかけづくり

「年代も立場も違う多くの人達に接して自分の中の価値観が変わった。」「地域の深刻な衰退状況を実感として知る

ことができました。」

「地域づくりインターン」を経験した学生は様々な感想を持ち帰ってきました。

ただその中でも最も多く共通するのは、「自分達は地域にいったい何ができたのだろうか？」というものです。私はこの疑問を聞くと、自分達は無力であるということを感じさせられ辛くなります。しかし同時に大変嬉しくも感じます。

それは地域にとって何より大切なのは、このような疑問を持ち、その後もその答えを探し求めながら地域に関わり続けていく人が増えていくことだと思っております。地域に直接利益をもたらすことは、短い期間ではなかなか難しく、効果がわかりにくいのがこの活動の一番の課題と言っても過言ではありません。ただそれでも学生を地域に送り続けること、前述したような地域に関心を持つ人材を生み出し育てることが何より自分達の役割であるのではないかと感じています。

「地域づくりインターンの会」は地域と学生が結びつききっかけの種を蒔きつづけ、それに少しでも水を与えていける団体でありたい。私はそう思っています。



派遣先での農作業体験